

テーマ

地球温暖化に伴う大気海洋諸現象の変化を考える

—CMIP3 マルチ気候モデル比較解析研究から—

趣旨説明

近年、地球温暖化は市民生活の中でも現実的に語られるようになり、気象・気候学に携わる者は、実際にどのような変化が身近に起きるのかという問いに対する具体的な答えを社会から要請される時代になった。私たちの生活を左右する日々の天候は、温帯低気圧や台風の強さや経路、熱波や寒波、豪雨や干ばつといった、短周期の気象・海象の現れ方により大きく影響される。温暖化時にいかなる変化が起きるかという問いに対しては、このような短周期の気象・海象の将来変化についての見通しが必要である。本スペシャルセッションでは、IPCC 第4次報告書のため WCRP 第3次結合モデル相互比較プログラム (CMIP3) の下に集約されたマルチモデルによる20世紀再現実験および21世紀シナリオ実験の中の諸現象の比較解析を通じて、現象のメカニズムについての理解を深め、温暖化の影響でそれらが将来いかに変化・変調するかについての予測結果を解釈するための議論をしたい。

世話人・連絡先

高菘 縁 yukari @ ccsr.u-tokyo.ac.jp

〒277-8568 柏市柏の葉5-1-5 東京大学気候システム研究センター

木本昌秀 kimoto @ ccsr.u-tokyo.ac.jp

〒277-8568 柏市柏の葉5-1-5 東京大学気候システム研究センター

尾瀬智昭 tomoaose @ mri-jma.go.jp

〒305-0052 つくば市長峰1-1 気象研究所

中村 尚 hisashi @ eps.s.u-tokyo.ac.jp

〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学